



バケットの処理

StorageGRID

NetApp
October 03, 2025

目次

バケットの処理	1
S3 ライフサイクル設定を作成する	9
ライフサイクル構成とは	9
ライフサイクル構成を作成します	9
バケットにライフサイクル設定を適用	12
バケットライフサイクルの有効期限が環境 オブジェクトであることを検証します	12
S3 オブジェクトロックのデフォルトバケット保持を使用する	13
オブジェクトロック設定の取得	13
PUT Object Lock の設定を指定します	14
バケットのカスタム処理	15

バケットの処理

StorageGRID システムでは、S3 テナントアカウントあたり最大 1、000 個のバケットがサポートされます。

バケット名については、AWS US Standard リージョンの制限が適用されますが、S3 仮想ホスト形式の要求をサポートするために DNS の命名規則にも従う必要があります。

["Amazon Web Services \(AWS\) ドキュメント：「Bucket Restrictions and Limitations」](#)

S3 API エンドポイントのドメイン名を設定

GET Bucket (List Objects) 処理と GET Bucket versions 処理では、StorageGRID の整合性制御がサポートされます。

最終アクセス時間の更新が個々のバケットで有効になっているか無効になっているかを確認することができます。

次の表に、StorageGRID での S3 REST API バケット処理の実装方法を示します。これらの処理を実行するには、アカウントに必要なアクセスクレデンシャルが付与されている必要があります。

操作	実装
バケットを削除します	Amazon S3 REST API のすべての動作が実装されています。
バケットの CORS を削除します	この処理は、バケットの CORS 設定を削除します。
バケットの暗号化を削除	この処理は、バケットからデフォルトの暗号化を削除します。既存の暗号化オブジェクトは暗号化されたままですが、バケットに追加された新しいオブジェクトは暗号化されません。
バケットライフサイクルを削除	この処理は、バケットからライフサイクル設定を削除します。
バケットポリシーを削除	この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを削除します。
バケットレプリケーションを削除します	この処理は、バケットに関連付けられているレプリケーション設定を削除します。
バケットのタグ付けを削除します	この処理では、「tagging」サブリソースを使用して、バケットからすべてのタグが削除されます。

操作	実装
GET Bucket (List Objects)、バージョン 1 およびバージョン 2	<p>この処理は、バケット内のオブジェクトの一部またはすべて（最大 1、000）を返します。オブジェクトのストレージクラスには '2 つの値のいずれかを指定できますこれは ' オブジェクトが reduced_redundancy ストレージクラスオプションを使用して取り込まれた場合でも同様です</p> <ul style="list-style-type: none"> • オブジェクトがストレージ・ノードで構成されるストレージ・プールに格納されていることを示す 'standard' • 「Glacier」。オブジェクトが、クラウド・ストレージ・プールで指定された外部バケットに移動されたことを示します。 <p>バケットに同じプレフィックスを持つ削除されたキーが多数含まれている場合、応答にキーを含まない「CommonPrefixes」がいくつか含まれることがあります。</p>
GET Bucket ACL の場合	<p>この処理では、バケットの所有者にバケットに対するフルアクセスがあることを示す応答が返され、所有者の ID、表示名、および権限が表示されます。</p>
GET Bucket CORS	<p>この処理は、バケットの「cors」設定を返します。</p>
GET Bucket encryption	<p>この処理は、バケットのデフォルトの暗号化設定を返します。</p>
GET Bucket lifecycle	<p>この処理は、バケットのライフサイクル設定を返します。</p>
GET Bucket location の各ノードで使用でき	<p>この処理は、PUT Bucket 要求で LocationConstraint 要素を使用して設定されたリージョンを返します。バケットのリージョンが「us-east-1」の場合は、リージョンに対して空の文字列が返されます。</p>
GET Bucket notification	<p>この処理は、バケットに関連付けられている通知設定を返します。</p>
GET Bucket Object versions	<p>バケットに対する読み取りアクセスで、「versions」サブリソースを使用して、バケット内のオブジェクトのすべてのバージョンのメタデータのリストが表示されます。</p>
GET Bucket policy の場合	<p>この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを返します。</p>
GET Bucket replication	<p>この処理は、バケットに関連付けられているレプリケーション設定を返します。</p>
GET Bucket tagging	<p>この処理では、「tagging」サブリソースを使用して、バケットのすべてのタグが返されます。</p>

操作	実装
GET Bucket versioning	<p>この実装では 'versioning サブリソースを使用して' バケットのバージョン管理状態を返します</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>blank</i>: バージョン管理は有効になっていません (バケットはバージョン管理されていません) • 有効: バージョン管理が有効になっています • 中断: バージョン管理は以前有効になっていて、中断されています
オブジェクトロック設定の取得	<p>この処理では、バケットのデフォルトの保持モードとデフォルトの保持期間 (設定されている場合) が返されます。</p> <p>を参照してください オブジェクトロック設定の取得 を参照してください。</p>
HEAD Bucket (ヘッドバケット)	<p>この処理は、バケットが存在し、そのバケットへのアクセス権限があるかどうかを判断します。</p> <p>この処理から返される情報は次の</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>x-ntap-sg-bucket-id</code> : UUID 形式のバケットの UUID。 • <code>x-ntap-sg-trace-id</code>: 関連付けられた要求の一意のトレース ID。

操作	実装
PUT Bucket の場合	<p>この処理は、新しいバケットを作成します。バケットを作成すると、そのバケットの所有者になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バケット名は次のルールを満たす必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ StorageGRID システム全体で（テナントアカウント内だけでなく）一意である必要があります。 ◦ DNS に準拠している必要があります。 ◦ 3 文字以上 63 文字以下にする必要があります。 ◦ 1 つ以上のラベルを連続して指定できます。隣接するラベルはピリオドで区切ります。各ラベルの先頭と末尾の文字は小文字のアルファベットか数字にする必要があります、使用できる文字は小文字のアルファベット、数字、ハイフンのみです。 ◦ テキスト形式の IP アドレスのようにはできません。 ◦ 仮想ホスト形式の要求でピリオドを使用しないでください。ピリオドを使用すると、サーバワイルドカード証明書の検証で原因の問題が発生します。 • デフォルトではバケットは us-east-1 リージョンに作成されますが、要求の本文で LocationConstraint 要求要素を使用し、別のリージョンを指定できます。LocationConstraint 要素を使用する場合は、Grid Manager またはグリッド管理 API を使用して定義されたリージョンの正確な名前を指定する必要があります。使用すべきリージョン名がわからない場合は、システム管理者にお問い合わせください。 • 注： StorageGRID で定義されていないリージョンを PUT Bucket 要求で使用すると、エラーが発生します。 • S3 オブジェクトロックが有効なバケットを作成するには、「x-amz-bucket-object lock-enabled」要求ヘッダーを含めることができます。を参照してください S3 オブジェクトロックを使用する。 <p>バケットの作成時に S3 オブジェクトのロックを有効にする必要があります。バケットの作成後に S3 オブジェクトのロックを追加または無効にすることはできません。S3 オブジェクトロックにはバケットのバージョン管理が必要です。バケットの作成時に自動的に有効になります。</p>
PUT Bucket CORS	<p>この処理は、バケットの CORS 設定を指定し、クロスオリジン要求を処理できるようにします。Cross-Origin Resource Sharing（CORS）は、あるドメインのクライアント Web アプリケーションが別のドメインのリソースにアクセスできるようにするセキュリティ機能です。たとえば、「images」という名前の S3 バケットを使用してグラフィックを格納するとします。「images」バケットに対して CORS 設定を指定することで、そのバケット内の画像を Web サイト「+ http://www.example.com+」に表示できます。</p>

操作	実装
PUT Bucket encryption	<p>この処理は、既存のバケットのデフォルトの暗号化状態を設定します。バケットレベルの暗号化が有効な場合は、バケットに追加されたすべての新しいオブジェクトが暗号化されます。StorageGRID では、StorageGRID で管理されるキーによるサーバ側の暗号化がサポートされます。サーバ側の暗号化設定規則を指定する場合は 'SSEAlgorithm' パラメータを AES256 に設定し 'KMSMasterKeyID' パラメータは使用しないでください</p> <p>バケットのデフォルトの暗号化設定は、オブジェクトのアップロード要求ですすでに暗号化が指定されている場合は無視されます（要求に「x-amz-server-side-encryption - *」要求ヘッダーが含まれる場合）。</p>
PUT Bucket lifecycle の場合	<p>この処理は、バケットの新しいライフサイクル設定を作成するか、既存のライフサイクル設定を置き換えます。StorageGRID では、1つのライフサイクル設定で最大 1、000 個のライフサイクルルールがサポートされます。各ルールには、次の XML 要素を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 有効期限（日数、日付） • NoncurrentVersionExpiration（NoncurrentDays） • フィルタ（プレフィックス、タグ） • ステータス • ID <p>StorageGRID では、次のアクションはサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AbortIncompleteMultipartUpload の略 • ExpiredObjectDeleteMarker • 移行 <p>バケット・ライフサイクルの Expiration アクションと ILM 配置手順の相互作用については '情報ライフサイクル管理を使用してオブジェクトを管理する手順のオブジェクトのライフサイクル全体にわたる ILM の動作を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> • 注：バケットライフサイクル設定は S3 オブジェクトロックが有効なバケットで使用できますが、従来の準拠バケットではバケットライフサイクル設定がサポートされません。

操作	実装
PUT Bucket notification	<p>この処理は、要求の本文に含まれる通知設定 XML を使用してバケットの通知を設定します。実装に関する次の詳細事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • StorageGRID では、Simple Notification Service（SNS）のトピックがデスティネーションとしてサポートされます。Simple Queue Service（SQS）エンドポイントまたは Amazon Lambda エンドポイントはサポートされていません。 • 通知のデスティネーションは、StorageGRID エンドポイントの URN として指定する必要があります。エンドポイントは、Tenant Manager またはテナント管理 API を使用して作成できます。 <p>通知設定が機能するためには、エンドポイントが存在している必要があります。エンドポイントが存在しない場合は '400 Bad Request' エラーがコード 'InvalidArgument' とともに返されます</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次のイベントタイプには通知を設定できません。これらのイベントタイプは * サポートされていません。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ s3 : ReducedRedundancyLostObject ◦ s3:ObjectRestore: Completed • StorageGRID から送信されるイベント通知は標準の JSON 形式を使用しますが、次のように使用されないキーおよび特定の値が使用されるキーがあります。 • * eventSource* <pre>sgws : s3`</pre> • * awsRegion * <p>含まれません</p> • * x-amz-id-2 * <p>含まれません</p> • * arn * <pre>urn : sgws : s3 : : : bucket_name'</pre>
PUT Bucket policy の場合	この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを設定します。

操作	実装
PUT Bucket replication	<p>この処理では、要求の本文に含まれるレプリケーション設定 XML を使用して、バケットの StorageGRID CloudMirror レプリケーションが設定されます。CloudMirror レプリケーションについては、実装に関する次の詳細事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • StorageGRID では、V1 のレプリケーション設定のみがサポートされます。つまり、StorageGRID では「Filter」要素をルールに使用することはサポートされておらず、V1 の規則に従ってオブジェクトバージョンが削除されます。詳細については、を参照してください "レプリケーション設定に関する Amazon S3 のドキュメント"。 • バケットレプリケーションは、バージョン管理されているバケットでもバージョン管理されていないバケットでも設定でき • レプリケーション設定 XML の各ルールで異なるデスティネーションバケットを指定できます。1つのソースバケットを複数のデスティネーションバケットにレプリケートできます。 • デスティネーションバケットは、テナントマネージャまたはテナント管理 API で指定された StorageGRID エンドポイントの URN として指定する必要があります。 <p>レプリケーション設定が機能するためには、エンドポイントが存在している必要があります。エンドポイントが存在しない場合、リクエストは「400 Bad Request」として失敗します。「複製ポリシーを保存できません。」というエラーメッセージが表示されます。指定されたエンドポイント URN は存在しません： <i>URN</i></p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定 XML で「Role」を指定する必要はありません。この値は StorageGRID では使用されず、送信されても無視されます。 • 設定 XML からストレージクラスを省略した場合、StorageGRID はデフォルトで「standard」ストレージクラスを使用します。 • ソースバケットからオブジェクトを削除する場合、またはソースバケット自体を削除する場合、クロスリージョンレプリケーションは次のように動作します。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ レプリケートの前にオブジェクトまたはバケットを削除すると、オブジェクトまたはバケットはレプリケートされず、通知は届きません。 ◦ レプリケートのあとにオブジェクトまたはバケットを削除すると、StorageGRID は、V1 のクロスリージョンレプリケーションに対する Amazon S3 の通常の削除動作に従います。

操作	実装
PUT Bucket tagging	<p>この処理では、「tagging」サブリソースを使用して、バケットの一連のタグを追加または更新します。バケットタグを追加する場合は、次の制限事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> StorageGRID と Amazon S3 はどちらもバケットごとに最大 50 個のタグをサポートします。 バケットに関連付けられているタグには、一意のタグキーが必要です。タグキーには Unicode 文字を 128 文字まで使用できます。 タグ値には、Unicode 文字を 256 文字以内で指定します。 キーと値では大文字と小文字が区別されます。
PUT Bucket versioning の場合	<p>この実装では、「versioning」サブリソースを使用して、既存のバケットのバージョン管理の状態を設定します。バージョン管理の状態は、次のいずれかの値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enabled：バケット内のオブジェクトに対してバージョン管理を有効にします。バケットに追加されるすべてのオブジェクトに、一意のバージョン ID が割り当てられます。 Suspended：バケット内のオブジェクトに対してバージョン管理を無効にします。バケットに追加されたすべてのオブジェクトは、バージョン ID 「null」を受け取ります。
PUT Object Lock の設定を指定します	<p>この処理は、バケットのデフォルト保持モードとデフォルトの保持期間を設定または削除します。</p> <p>デフォルトの保持期間を変更した場合、既存のオブジェクトバージョンの retain-until はそのまま残り、新しいデフォルトの保持期間を使用して再計算されることはありません。</p> <p>を参照してください PUT Object Lock の設定を指定します を参照してください。</p>

関連情報

整合性制御

[GET Bucket last access time 要求](#)

[バケットとグループのアクセスポリシー](#)

[監査ログで追跡される S3 処理](#)

[ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)

[テナントアカウントを使用する](#)

S3 ライフサイクル設定を作成する

S3 ライフサイクル設定を作成して、特定のオブジェクトが StorageGRID システムから削除されるタイミングを制御できます。

このセクションの簡単な例では、S3 ライフサイクル設定で特定のオブジェクトが特定の S3 バケットから削除（期限切れ）されるタイミングを制御する方法を示します。このセクションの例は、説明のみを目的としています。S3 ライフサイクル設定の作成の詳細については、を参照してください "[『Amazon Simple Storage Service Developer Guide』](#) : "[Object lifecycle management](#)". StorageGRID では、Expiration アクションのみがサポートされ、移行アクションはサポートされません。

ライフサイクル構成とは

ライフサイクル設定は、特定の S3 バケット内のオブジェクトに適用される一連のルールです。各ルールは、影響を受けるオブジェクトと、それらのオブジェクトの有効期限（特定の日付または日数後）を指定します。

StorageGRID では、1つのライフサイクル設定で最大 1、000 個のライフサイクルルールがサポートされます。各ルールには、次の XML 要素を含めることができます。

- Expiration : 指定した日付に達した場合、またはオブジェクトが取り込まれたときから指定した日数に達した場合にオブジェクトを削除します。
- NoncurrentVersionExpiration : 指定した日数に達したオブジェクトを削除します。これは、オブジェクトが最新でなくなったときからです。
- フィルタ（プレフィックス、タグ）
- ステータス
- ID

バケットにライフサイクル設定を適用する場合、バケットのライフサイクル設定は常に StorageGRID の ILM 設定よりも優先されます。StorageGRID は、ILM ではなくバケットの Expiration 設定を使用して、特定のオブジェクトを削除するか保持するかを決定します。

そのため、ILM ルールの配置手順がオブジェクトに引き続き適用されていても、オブジェクトがグリッドから削除されることがあります。あるいは、ILM 配置手順がすべて終了したあとも、オブジェクトがグリッドに保持される場合があります。詳細については、を参照してください [オブジェクトのライフサイクル全体にわたる ILM の動作](#)。



バケットライフサイクル設定は S3 オブジェクトロックが有効になっているバケットで使用できますが、従来の準拠バケットではバケットライフサイクル設定がサポートされません。

StorageGRID では、次のバケット処理を使用してライフサイクル設定を管理できます。

- バケットライフサイクルを削除
- GET Bucket lifecycle
- PUT Bucket lifecycle の場合

ライフサイクル構成を作成します

ライフサイクル設定を作成するための最初の手順として、1つ以上のルールを含む JSON ファイルを作成し

ます。たとえば、この JSON ファイルには次の 3 つのルールが含まれています。

1. ルール 1 は、プレフィックス「Category1/」に一致するオブジェクトと「key2` の値」が「tag2` のオブジェクトにのみ適用されます。「Expiration」パラメータは、フィルタに一致するオブジェクトの有効期限が 2020 年 8 月 22 日の午前 0 時に切れるように指定します。
2. ルール 2 は、プレフィックス「Category2/」に一致するオブジェクトにのみ適用されます。「Expiration」パラメータを指定すると、フィルタに一致するオブジェクトの取り込みから 100 日後に期限切れになります。



日数を指定するルールは、オブジェクトが取り込まれた時点を基準とした相対的なルールです。現在の日付が取り込み日と日数を超えている場合は、ライフサイクル設定の適用後すぐに一部のオブジェクトがバケットから削除される可能性があります。

3. ルール 3 は、プレフィックス「Category3/」に一致するオブジェクトにのみ適用されます。Expiration パラメータを指定すると「最新でないすべてのバージョンの一致オブジェクトが」最新でない状態になってから 50 日後に期限切れになります

```

{
  "Rules": [
    {
      "ID": "rule1",
      "Filter": {
        "And": {
          "Prefix": "category1/",
          "Tags": [
            {
              "Key": "key2",
              "Value": "tag2"
            }
          ]
        }
      },
      "Expiration": {
        "Date": "2020-08-22T00:00:00Z"
      },
      "Status": "Enabled"
    },
    {
      "ID": "rule2",
      "Filter": {
        "Prefix": "category2/"
      },
      "Expiration": {
        "Days": 100
      },
      "Status": "Enabled"
    },
    {
      "ID": "rule3",
      "Filter": {
        "Prefix": "category3/"
      },
      "NoncurrentVersionExpiration": {
        "NoncurrentDays": 50
      },
      "Status": "Enabled"
    }
  ]
}

```

バケットにライフサイクル設定を適用

ライフサイクル設定ファイルを作成したら、PUT Bucket lifecycle 要求を発行してバケットに適用します。

この要求は、サンプルファイル内のライフサイクル設定を、「testbucket」という名前のバケット内のオブジェクトに適用します。

```
aws s3api --endpoint-url <StorageGRID endpoint> put-bucket-lifecycle-configuration
--bucket testbucket --lifecycle-configuration file://bktjson.json
```

ライフサイクル設定がバケットに正常に適用されたことを検証するために、問題には GET Bucket lifecycle 要求があります。例：

```
aws s3api --endpoint-url <StorageGRID endpoint> get-bucket-lifecycle-configuration
--bucket testbucket
```

成功応答には、適用したライフサイクル設定が表示されます。

バケットライフサイクルの有効期限が環境 オブジェクトであることを検証します

PUT Object、HEAD Object、または GET Object 要求の発行時に、ライフサイクル設定の有効期限ルールが環境の特定のオブジェクトかどうかを確認できます。ルールが適用される場合、応答にはオブジェクトの有効期限と一致する有効期限ルールを示す「Expiration」パラメータが含まれます。



バケット・ライフサイクルは ILM よりも優先されるため、表示される「expiry-date」は、オブジェクトが削除される実際の日付です。詳細については、[を参照してください](#) [オブジェクト保持期間の決定方法](#)。

たとえば、この PUT Object 要求は 2020 年 6 月 22 日に発行され、「testbucket」バケットにオブジェクトを配置します。

```
aws s3api --endpoint-url <StorageGRID endpoint> put-object
--bucket testbucket --key obj2test2 --body bktjson.json
```

成功の応答は、オブジェクトの有効期限が 100 日（2020 年 10 月 1 日）に切れ、ライフサイクル設定のルール 2 に一致したことを示します。

```
{
  *"Expiration": "expiry-date=\"Thu, 01 Oct 2020 09:07:49 GMT\"", rule-id="rule2",
  "ETag": "\"9762f8a803bc34f5340579d4446076f7\""
}
```

たとえば、この HEAD Object 要求を使用して、testbucket バケット内の同じオブジェクトのメタデータを取得しました。

```
aws s3api --endpoint-url <StorageGRID endpoint> head-object
--bucket testbucket --key obj2test2
```

成功の応答にはオブジェクトのメタデータが含まれ、オブジェクトが 100 日で期限切れになり、ルール 2 に一致したことが示されます。

```
{
  "AcceptRanges": "bytes",
  *Expiration": "expiry-date=\"Thu, 01 Oct 2020 09:07:48 GMT\", rule-
id=\"rule2\"",
  "LastModified": "2020-06-23T09:07:48+00:00",
  "ContentLength": 921,
  "ETag": "\"9762f8a803bc34f5340579d4446076f7\""
  "ContentType": "binary/octet-stream",
  "Metadata": {}
}
```

S3 オブジェクトロックのデフォルトバケット保持を使用する

バケットで S3 オブジェクトのロックが有効になっている場合は、バケットに追加された各オブジェクトに適用されるデフォルトの保持モードとデフォルトの保持期間を指定できます。

- バケットの作成時に S3 オブジェクトロックを有効または無効にすることができます。
- バケットで S3 オブジェクトロックが有効になっている場合は、バケットのデフォルトの保持を設定できます。
- デフォルトの保持設定は次のとおりです。
 - デフォルトの保持モード：StorageGRID は「準拠」モードのみをサポートします。
 - デフォルトの保持期間（日数または年数）。

オブジェクトロック設定の取得

GET Object Lock Configuration 要求を使用すると、バケットでオブジェクトロックが有効になっているかどうかを確認できます。有効になっている場合は、バケットにデフォルトの保持モードと保持期間が設定されているかどうかを確認できます。

オブジェクトの新しいバージョンがバケットに取り込まれる際には、デフォルトの保持モードが適用されるのは、「x-amz-object-lock-mode」が指定されていない場合です。デフォルトの保持期間は、「x-amz-object-lock-retain-date」が指定されていない場合に、retain-until date の計算に使用されます。

この処理を完了するには、s3 : GetBucketObjectLockConfiguration 権限または root アカウントが必要です。

要求例

```
GET /bucket?object-lock HTTP/1.1
Host: host
Accept-Encoding: identity
User-Agent: aws-cli/1.18.106 Python/3.8.2 Linux/4.4.0-18362-Microsoft
botocore/1.17.29
x-amz-date: date
x-amz-content-sha256: authorization string
Authorization: authorization string
```

応答例

```
HTTP/1.1 200 OK
x-amz-id-2:
iVmcB7OXXJRkRH1FiVq1151/T24gRfpwpuZrEG11Bb9ImOMAAe98oxSpXlknabA0LTvBYJpSIX
k=
x-amz-request-id: B34E94CACB2CEF6D
Date: Fri, 04 Sep 2020 22:47:09 GMT
Transfer-Encoding: chunked
Server: AmazonS3

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ObjectLockConfiguration xmlns="http://s3.amazonaws.com/doc/2006-03-01/">
  <ObjectLockEnabled>Enabled</ObjectLockEnabled>
  <Rule>
    <DefaultRetention>
      <Mode>COMPLIANCE</Mode>
      <Years>6</Years>
    </DefaultRetention>
  </Rule>
</ObjectLockConfiguration>
```

PUT Object Lock の設定を指定します

PUT Object Lock Configuration 要求を使用すると、オブジェクトロックが有効になっているバケットのデフォルトの保持モードとデフォルトの保持期間を変更できます。以前に設定したデフォルトの保持設定を削除することもできます。

オブジェクトの新しいバージョンがバケットに取り込まれる際には、デフォルトの保持モードが適用されるのは、「x-amz-object-lock-mode」が指定されていない場合です。デフォルトの保持期間は、「x-amz-object-lock-retain-date」が指定されていない場合に、retain-until date の計算に使用されます。

オブジェクトバージョンの取り込み後にデフォルトの保持期間が変更された場合、オブジェクトバージョンの retain-until はそのまま残り、新しいデフォルトの保持期間を使用して再計算されることはありません。

この処理を完了するには、s3 : PutBucketObjectLockConfiguration 権限または root アカウントが必要です。

PUT 要求では 'Content-MD5' 要求ヘッダーを指定する必要があります

要求例

```
PUT /bucket?object-lock HTTP/1.1
Accept-Encoding: identity
Content-Length: 308
Host: host
Content-MD5: request header
User-Agent: s3sign/1.0.0 requests/2.24.0 python/3.8.2
X-Amz-Date: date
X-Amz-Content-SHA256: authorization string
Authorization: authorization string

<ObjectLockConfiguration>
  <ObjectLockEnabled>Enabled</ObjectLockEnabled>
  <Rule>
    <DefaultRetention>
      <Mode>COMPLIANCE</Mode>
      <Years>6</Years>
    </DefaultRetention>
  </Rule>
</ObjectLockConfiguration>
```

バケットのカスタム処理

StorageGRID システムでは、S3 REST API に追加されたシステム固有のカスタムバケット処理をサポートしています。

次の表に、StorageGRID でサポートされるカスタムバケット処理を示します。

操作	説明	を参照してください。
GET Bucket consistency	特定のバケットに適用されている整合性レベルを返します。	GET Bucket consistency 要求を実行します
PUT Bucket consistency	特定のバケットに適用される整合性レベルを設定します。	PUT Bucket consistency 要求
GET Bucket last access time の場合	特定のバケットで最終アクセス時間の更新が有効になっているか無効になっているかを返します。	GET Bucket last access time 要求

操作	説明	を参照してください。
PUT Bucket last access time のように指定します	特定のバケットの最終アクセス時間の更新を有効または無効にできます。	PUT Bucket last access time 要求の場合
バケットのメタデータ通知設定を削除します	特定のバケットに関連付けられているメタデータ通知設定 XML を削除します。	DELETE Bucket metadata notification configuration 要求
GET Bucket metadata notification configuration	特定のバケットに関連付けられているメタデータ通知設定 XML を返します。	GET Bucket metadata notification configuration 要求
PUT Bucket metadata notification configuration のコマンドです	バケットのメタデータ通知サービスを設定します。	PUT Bucket metadata notification configuration 要求
準拠設定の PUT Bucket	廃止およびサポート終了：準拠を有効にした新しいバケットを作成できなくなりました。	廃止：準拠設定を指定した PUT Bucket
GET Bucket compliance で確認します	廃止されましたがサポートされています：既存の古い準拠バケットに対して現在有効な準拠設定を返します。	廃止予定：GET Bucket compliance 要求
PUT Bucket compliance で確認してください	廃止されましたがサポートされています：既存の古い準拠バケットの準拠設定を変更できます。	廃止予定：PUT Bucket compliance 要求

関連情報

[監査ログで追跡される S3 処理](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。